

公益社団法人 石川県作業療法士会 ニュース

第122号 2022年3月16日 発行

リハビリテーション・スポーツフェス2021の開催を終えて

企画部担当理事 種本 美雪

(専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー)



当会企画部では例年、「風船バレーボール大会」を企画・運営しているが、今年度もCOVID19感染拡大を受け、中止となった。一方、感染拡大に伴い「活動できる機会」「外出できる場」が減っている現状を踏まえ、障害をもたれた多くの方に「施設でも自宅でもどこでも家族と仲間とスポーツを楽しむ」をテーマに「活動できる機会」を提供できるよう本

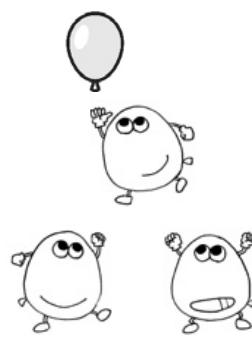
フェスを企画し、延べ136名の多くの方に参加頂いた。改めてお礼を申し上げる。

今回オンライン型エントリーという新しい形式を採用し、全4種目(風船リフティング・フライングディスク・ピンポンカップイン・紙コップタワー)のオリジナルルールを設定し、全て個人競技にて、各競技のタイムや飛距離、回数を競い合ってもらい、途中

経過も随時webにて公表した。

参加者からは「楽しかった」「景品が良かった」「エコバッグが嬉しかった」と聞かれた一方、「種目が難しかった」「フライングディスクを上手く飛ばすことが出来なかった」「種目のレベルをもう少し上げてみては？」との意見も聞かれた。次回開催の際は参考にしていきたい。また参加頂いたスタッフからは「webでの開催であり、競技自体はとても楽しんでおり、気分の発散にもなっていた」「コロナ禍であまり変化のない生活を送っている患者さんにとって、大会に参加できたこと自体がとても良い刺激になった」「風船バレー大会に出場することが日々のモチベーションになっている患者さんも居り、患者さんにとって楽しみや目標が無くならずによかったと思う」と大変嬉しいコメントも頂いた。

コロナ禍の今、「私らしい暮らし」が思うようにできない日々が続いている。今回のフェスにて、少しでも笑顔になれる、意味を持てる時間を感じて頂けたのなら幸いである。



【競技別延べ参加者数】

風船リフティング	フライングディスク	ピンポンカップイン	紙コップタワー
24名	52名	52名	65名

【部門別参加率】

子供部門	成人部門 (20歳以上65歳未満)	シルバー部門 (65歳以上85歳未満)	ゴールド部門 (85歳以上)
0%	23.5%	40.4%	36%



石川県作業療法学会で発表、参加しよう！

第30回石川県作業療法学会長 西 悦子
(金沢大学附属病院)

令和4年7月2日(土)・3日(日)に行われる石川県作業療法学会の演題募集の締め切りが令和4年3月31日(木)に迫っている。当日にももちろん参加して欲しいが、作業療法を極めるために演題を登録してみよう。MTDLPを使用した症例報告、現在とりくんでいる課題や事例登録の症例、もしくは支部で発表した内容に指導してもらったことをプラスしての発表、経験年数を積みかさねた会員は自分の臨床、研究の成果をぜひ後輩たちに示していただきたい。先日、国立

大学病院主任者会議にて湘南医療大学リハビリテーション学科教授鶴見先生のご講演を拝聴した。理学療法、作業療法が病院で始まった時代の話である。何から何まで分野、年齢を問わず患者さんに向き合っていた。とても感動し、今の時代が働く環境に恵まれていることを痛感した。石川県作業療法学会は記念すべき30回をむかえる。この恵まれた環境の中で自分たちの職域を守り、自己研鑽して作業療法を極めよう。

北陸三県MTDLP事例検討会の発表を終えて

山本 恭啓
(金沢脳神経外科病院)

今回、北陸三県MTDLP事例検討会に参加し、事例発表を行う機会を頂いた。北陸三県での合同開催ということもあり、普段参加している支部の検討会とは、また異なった分野で活躍する参加者と活発な議論ができ、大変勉強になった。

事例発表では、MTDLPを使用する目的を明確に持つこと、入院生活は事例にとって人生のほんの一部であり、退院後の24時間の生活イメージを明確にもつこと、退院後に関わるスタッフへの申し送りの仕方などについて建設的なアドバイスを頂いた。発表

を通して、作業療法士は事例の能力向上・代償手段の活用のみならず、社会資源サービスや福祉用具の活用、支援者の役割分担など様々な手段を用いることで、事例の“大事な作業”の実現に向けて支援できる職種であると改めて実感した。

今回、ご指導頂いたファシリテーターの先生方のように視野を広く持ちつつも、細部まできめ細かなサポートができるよう日々の臨床を実践していきたい。



今年度の振り返りと来年度に向けて

公益社団法人 石川県作業療法士会 副会長 寺田 佳世
(石川県リハビリテーションセンター)

COVID-19により社会の格差は拡大し、医療・保健・福祉の機能不全はとりわけ障害のある人や高齢者、そのケアを担う人々に大きな影響を与えている。このような社会状況のなか、2021年度は持続可能な事業運営を模索し、①作業を通して人々の健康と幸福を実現する作業療法の理念に基づき、障害のある人や高齢者の活動や参加に寄与すること。②作業療法士の技能向上がはかれるシステムを構築すること。③将来作業療法士を目指す人材確保のため作業療法の魅力を啓発すること。④新しい県士会組織体制の移行準備を進めること。等に注力してきた。

①については長年継続してきた「石川県リハビリテーション風船バレーボール大会」にかわり、オンラインを利用した「リハビリテーション・スポーツフェス2021」を企画し、20歳～100歳の136名の障害のある方や高齢者が4つのオンライン競技に挑戦できる活動と参加の場を提供した。また、金沢市から委託を受け「新しい生活様式」の中でも心と体の健康を保ち、自分らしく暮らし続けることを目的とした「いつでもどこでも脳活プログラム(感染対策版)」の作成等に取り組んだ。

②については県士会の会議や学会・研修会においてもICT活用を積極的に進め各事業の実施方法の効率

化やアクセシビリティの向上に努め、会員の自己研鑽が持続できるようオンライン方式による学会運営、様々な研修企画に努めた。なかでも新人会員の歓迎をオンライン飲み会で行い、世代を超えた作業療法士の親睦の場となった。

③についてもオンラインを利用し「作業療法体験セミナー」、「中高校生ボランティアによる高齢者のオンライン体験会」、「小学生体験会」などの啓発事業に取り組んだ。

④については今年度役員選挙において、若いパワーを発揮できる新任理事と新しい体制でスタートした年でもある。地域包括ケア、共生社会の実現をキーワードに、医療・保健・福祉の様々な社会状況の変化にあわせて、貢献できる士会として発展していくために、県内を4つにわけた支部活動の強化をはかる体制を構築し、多くの会員の力をあわせて活動できる士会を目指していきたいと考える。

次年度に向けてもCOVID-19の影響を考慮しながら事業を進めることになると思うが、持続可能な事業運営を模索しながら、責務を持って障害のある人や高齢者の活動や社会参加に働きかける作業療法を展開できればと思っている。

第1回 生活行為工夫情報コンテストについて

福祉機器部理事 越田 雄
(JCHO金沢病院)

今年度より、当会では日本作業療法士協会が実施している生活行為工夫情報事業に参加しており、会員に対して福祉用具相談支援システムへの登録と、OTの工夫によって生活行為の課題が解決した事例の投稿を奨励している。現在、本事業をさらに推進するために「第1回 生活行為工夫情報コンテスト」を開催しており、領域や分野、経験年数を問わず、積極的な事例投稿をお願いしたい。特に一定年数の経験を持つ会員には、後進のOTを育てる意味でも、これまで実践されてきた作業療法における工夫をぜひ投稿していただければと思う。会員各自が持っている生活行為の工夫情報が、福祉用具相談支援システムにおいて集積・共有されることで、県士会OT全体のスキルアップに繋がり、より多くの対象者に質の高い生活環境支援を提供できると考えている。詳細に

ついては、2月に全会員に向けて送付した、本事業とコンテストの案内をご参照いただきたい。多くの事例投稿をお待ちしている。



2021年度運転と作業療法委員会協力者会議の参加報告

運転と作業療法に係る委員会 高間 達也
(恵寿総合病院)

2022年1月22日(土)に、作業療法委員会協力者会議がオンラインにて開催された。2017年に日本作業療法士協会内に運転と作業療法特設委員会として設置され、5年間の活動が行われてきた。2023年に地域振興部の一部となり、活動が継続されるという事である。

協力者会議では、各都道府県の施設へのアンケート結果について、データ共有が行われた。また、東海北陸の7県で情報交換を行う機会があったが、各県で「ワーキンググループの活動停滞」、「他組織との連

携困難」などの問題にも直面している印象を受けた。

石川県士会でも、運転と作業療法に係る委員会を設置し活動を行っている。OTの運転支援に対する知識や技術の底上げや連携強化を目的に勉強会を開催している。2022年度は、基礎的知識のレクチャーや事例検討を継続する他、移動支援に携わる他職種や組織との関係づくりを目指して活動を継続していく予定である。引き続き多くの会員にご参加いただきたい。

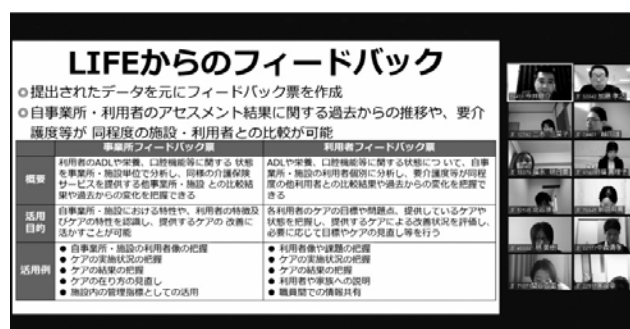
石川県高度・専門医療人材育成支援事業研修会

在宅支援部通所領域・老年医療部合同研修会

茅崎 幸(さはらファミリークリニック デイケアセンターひだまりの樹)

令和4年1月23日(日)「高度・専門医療人材育成支援事業研修会 令和3年度 在宅支援部通所領域・老年医療部合同研修会」に参加し、在宅領域におけるコロナ禍での多職種連携の工夫というテーマで発表する機会を頂いた。オンラインを使用しての発表経験がなく、発表に至るまでに資料作成や考えをまとめることに苦心したが、職場の上司や事務局の方々からのご指導を頂きながら、なんとか形にすることができ、緊張しながらも無事発表を終えることができた。在

宅領域・医療機関、多方面からの発表があり、各領域での取り組みや工夫を知ることができ、発見や学びの多い時間となった。また、医療と在宅の連携に関し、コロナ禍での情報提供は従来の書面での経過報告書のみでは不十分であることを痛感した。今後はICTの活用を推進し、対象者の状態や希望、生活様式や環境等、双方が理解しやすい情報提供を行う必要性を強く感じた。コロナ禍にも関わらずこのような機会を準備して下さった方々に深く感謝申し上げる。



石川県訪問リハビリテーション研修会

「コロナ禍における終末期として専門職に求めるリスク管理と役割

～ 2040年を見据えた在宅に携わるリハビリテーション専門職の心構え～」

坂本 真理(なないろ訪問看護ステーション)

令和4年2月12日(土)、「コロナ禍における終末期として専門職に求めるリスク管理と役割～ 2040年を見据えた在宅に携わるリハビリテーション専門職の心構え～」と称して、やまと@ホームクリニックの大和太郎医師にご講演頂いた。

普段から、終末期、緩和ケアに関わることの多い大和先生は、患者の自律(自分で選ぶことが出来る)を大事にされていると話されていたのが興味深かった。例えば、病状が進行し、一人でトイレに行けな

くなった時、少なくともベッド上排泄、ポータブルトイレ、バルーン留置、介助でのトイレ排泄の選択肢を提案し、選んでもらうことが出来ると。

私たちはADL動作や福祉用具の知識がある分、その時の能力に見合った方法が最善策のように提案しがちだが、在宅分野、特に終末期では、自律を促すことが最期までその人らしく生きることの支援につながると感じた。沢山の選択肢を提案できる作業療法士になれるよう精進していきたい。

能登支部

恵寿総合病院 小川 正人

2月5日(土)に第3回能登支部事例検討会が21名の参加で開催。「視覚失認など多彩な高次脳障害を呈した事例」は半盲や無視の選別の重要性、病棟生活の広げ方、多職種家族との連携について考えを共有した。「脳梗塞後の運転支援」では運転能力の評価に留まらず発症前同様、美味しいコーヒーと音楽を楽しむ車内空間

も考えるべきという意見は、新たな気づきとなった。また次年度県学会長の西先生より、本事例を練り、学会でお待ちしておりますと暖かい言葉も頂けた。能登支部は来年度も同様に検討会を予定、多くの参加をお待ちしております。

金沢西支部

石川県リハビリテーションセンター 長原 美穂

この本稿執筆時点で、金沢西支部では、2回的事例検討会と3回のMTDLP事例検討会が終了している。事例検討会は、13施設・延べ46名、MTDLP事例検討会は15施設・延べ49名の方に参加いただいた。事例検討会は、会員間で知識の共有と交流をはかれるよ

う「ミニ相談コーナー」を設けた。MTDLP事例検討会は、グループワークで話しやすいよう同年代でのグループ分けにするなど少しずつ工夫を重ねているところである。今後も会員の皆様が研鑽を積める場を提供していきたい。

金沢東支部

金沢大学附属病院 堀江 翔

MTDLP事例検討会を1月26日(水)に、一般的事例検討会は2月4日(金)に実施した。どちらも充実した内容の報告で、全ての発表が県学会またはそれ以上の内容との声も聞かれた。過去に支部の報告から全国学会での受賞に繋がった例もあり、積極的に声掛

けを行っていききたい。来年度もそれぞれ3回ずつの事例検討会を予定している。MTDLPについては回によって報告の領域(回復期など)を変えて依頼を行っているため、様々な領域の方の参加を期待している。

加賀支部

片山津温泉・丘の上病院 西村 幸盛

2月16日(水)の第3回症例検討会では、35名の参加者のもと6症例の報告があった。座位の保持という生活のベースとなる課題から食事場面での介入、地域生活への移行など介入する範囲も様々であり、画面越しながらも活発な意見交換がなされた。今回報告

された6名はいずれも協会の会員番号が80000番台の会員であった。今年度は今回の検討会が最後であるが、次年度は中堅やベテランの会員も是非とも奮起して頂きたいと思う。

◆◆◆令和3年度 公益社団法人石川県作業療法士会 第5回理事連絡会 議事録◆◆◆

1. 日時・場所：令和4年1月12日(水) 19時00分～21時45分 西泉事務所および Zoom使用によるWeb会議
2. 出席：東川、寺田、安本、麦井、桂、東、米田、中森、種本、永井、合歓垣、酒野、村井、坂下、加藤、越田、高橋、柿島、長原、市川(堀江 金沢東支部長代理)、小川、西村
書記：山本、山下

3. 議 事 【審議事項】

①令和4年度予算について

安本：令和3年度と比べて支出に大きな変化はない。公益目的事業会計の黒字分は流動資産と合わせて2024年度に石川県で開催予定の東海北陸OT学会の積立に充てる。

東川：企画いただいた次年度の事業計画で予算に問題はない。

②令和4年度事業計画について

《事業部》小学生の作業療法士体験学習会は安価な会場も検討していく。

《企画部》40周年記念事業は開催する。開催年度については今後検討する。承認

《地域保健福祉部－福祉》研修会は参加・作成型の集いの会として検討する。

《福祉機器部》生活行為工夫情報事業の参加登録者数は増加している。事例登録数も増やせるよう検討していく。

《在宅支援部－通所領域》部長を設置して実務業務を担ってもらい、担当理事は組織運営業務を行う。

《在宅支援部－訪問領域》訪問作業療法に関するガイドライン(石川県版)をグループワーク等で作成する。

《身障医療部》研修会是中・長期計画で企画していく。

《老年医療部》部長を設置して実務業務を中心に担ってもらう。

《教育部》実務業務が増しているので部員を増加して対応していく。

《MTDLP推進委員会》事例登録フォローアップ研修における指導者への謝金は、上限(10時間)を設けた日当費として他部局との整合性を検討していく。年3回開催してきたMTDLP事例検討会は、年2回の開催でも可能とし様子をみていく。

《金沢東支部》新型肺炎の感染再拡大に鑑み、百万石踊り流しへの積極的な参加募集は行わない。

《金沢西支部》参集型開催では、軽食などをはさみながらの交流ができる時間を設けていく。

《認知症対応委員会》認知症家族の会からの問い合わせには、いつでも対応できるように準備しておく。

《運転と作業療法に関する委員会》勉強会と研修会とで謝金等の相違について整理をし、後日報告する。

③各部からの上程案件

《福祉機器部》生活行為工夫情報コンテストについて案内チラシの内容を再検討する。表彰は県学会時から総会表彰へ変更し締切日を再設定する。承認

《身障医療部》診療報酬・介護報酬改定研修会(3/26開催)では会長よりOT協会47委員会の報告と、管理運営教育部よりキャリアラダー原案についての周知連絡を行う。承認

《学術部》第30回県OT学会では30回記念としての企画を検討していく。継続審議

《認知症対応委員会》OT協会主催の「石川県士会における認知症への取り組みを推進する担当者同士の情報交換会」への推薦参加者を吉川舞子氏(認知症対応副委員長・ろうけん桜並木)、竹内佑氏(認知症対応委員・金沢リハビリテーションアカデミー)、林玲子氏(認知症対応委員・県立こころの病院)、本あかり氏(認知症対応委員・金沢脳神経外科病院 1部のみ)とする。承認

《災害対策委員会》今年度の災害医療研修の基礎編が開催されなかったことと、オンライン研修であったことから予算の余剰があるので、委員の育成として災害リハビリテーションの書籍を購入する。承認

《事業部》「中高生による高齢者の生活向上プロジェクト」の報告会時に予定の講演会における、外部講師の選定を検討する。継続審議

《企画部》令和4年度新会員研修の開催日・場所は、OT協会総会の開催日に合わせて検討する。継続審議

インフォメーション

令和4年度 会費納入についてのお知らせ

- ・ **継続** 石川県作業療法士会年会費：8,000円
 - ・ **新規** 4月以降に県士会へ新規入会：13,000円（入会費5,000円＋年会費8,000円）
- 【納入期間】令和4年4月1日～令和4年4月末日（期間厳守でお願いいたします）

【納入先】

- 北國銀行 野田支店 普通 260902
公益社団法人 石川県作業療法士会 会長 東川哲朗
- 郵便振替 00720-7-22369 公益社団法人 石川県作業療法士会
ネットバンキングの場合：ゆうちょ銀行 当座預金 支店079 口座番号0022369

職場変更・自宅住所変更がある場合は届出もお忘れなく！！

県士会ホームページ（<http://www.ishikawa-ot.com>）より
『会員の皆様へ』（スマホの場合は右上のメニュー） → 『入会・異動・退会手続き方法』へ

お問い合わせ先 (公社) 石川県作業療法士会 事務局
jimu-n@ishikawa-ot.com FAX：076-259-0681

令和4年度 公益社団法人 石川県作業療法士協会 総会(予定) ～表彰式典・新人歓迎会～

日程：5月21日(土) 於：KKRホテル金沢

※COVID-19感染の拡大状況によっては変更あり

第30回 石川県作業療法学会

作業療法を極める ～それぞれのライフステージで～



会期 2022年7月2日(土)3日(日)
会場 金沢歌劇座
学会長 西 悦子（金沢大学附属病院）

特別講演 「広範性発達障害者のそれぞれのライフステージでの
問題点と作業療法について」
7月3日 辛島 千恵子 氏（びわこリハビリテーション専門職大学 作業療法科 教授）
教育講演 テーマ「QOL」
7月2日 能登 真一 氏（新潟医療福祉大学 作業療法学科 教授）
その他、第30回を記念したセッション等を予定しています！

演題募集 締切 3月31日 ※会場での口述のみの予定 認定OTによる発表に向けたアドバイス

注意：会場、発表方法等は新型コロナウイルスの感染状況により変動することがあります。
県士会Web等でのお知らせに注意してください。

その他詳細は県士会Webにて <https://ishikawa-ot.com/archives/category/gakkai-info>



PT・OT・STのための
総合オンラインセミナー **リハノメ**

「リハノメ」はPT・OT・STのための、どこでも学べる
オンラインセミナーサービスです。臨床に悩むPT・OT・STのために、
各分野の専門家が臨床経験や研究成果に基づいた知識・技術をお届けいたします。

1ヶ月見放題プラン
通常料金 3,080円が初回限定で…

980円 (税込)

お申込はこちら

配信動画 作業から考える食事支援のありかた
～求められる作業療法士になるために～

佐藤 彰 先生
作業療法士 / 目白大学保健医療学部 作業療法学科 准教授

豪華講師陣が
ご登壇!

配信動画 脳卒中に対する臨床作業療法
～上肢機能からADL・Activity～

山本 伸一 先生
作業療法士 / 山梨リハビリテーション病院
リハビリテーション部 副部長 兼 作業療法課長

さらに
**法人様
向けプラン**
のご用意もしております。
資料請求などリハノメ HP
からお問い合わせください。

お問い合わせは
こちらまで
お願いいたします

リハビリテーションを
『かたち』にする会社 **gene**

〒461-0004 愛知県名古屋市中区栄1丁目26-12 IKKO新栄ビル 6階

semnar@gene-llc.jp
Tel.052-325-6611 リハノメ 検索

「超高齢社会」、
そして「アフター・コロナ」に向けて。
現場の悩みを解決したい方や、
学びの追及をしたい方へ。
金城大学 大学院で学んでみませんか?

- 総合リハビリテーション学研究科
- 総合リハビリテーション学専攻(修士課程)

遠隔オンライン
学習対応

安心設定の
学納金

就業しながら学べる
昼夜開講制

2020年度
「作業療法士」
国家試験合格率 **96%** (2020年度卒業生実績)
(全国平均81.3%)

金城大学 詳しくは、
ホームページを
ご覧ください。

全国に広がる有料老人ホーム
**パーキンソン病専門
PDハウス**

施設 ビジョン
「我がままに生きる」

「病気だからできない」ではなく「病気ででもできる
ことはある」という視点から、利用者様が様々なもの
に挑戦できる環境を目指しています。また、現場で
働くセラピストの想いや技術が活きる、未来ある場
所になるよう日々試行錯誤しています。

働き方改革 目標
2023年に向けた

公休数 **120日** 残業 **0時間** 有給取得 **100%**

PDハウス野芥 笠松 朋枝
PDハウスには、元気で優しく知識が豊富で、尊敬で
きるスタッフさんがとても多いです。私もまだまだ
周りの皆さんに助けをもらうことが多いのですが、
これからは私自身が成長し、頼ってもらえるような
存在になることが目標です。

I 出店計画

■ 関東エリア
PDハウス相模大野 2021.01
東京1号店 2021.夏
神奈川2号店 2021.秋

■ 関西エリア
PDハウス岸部 2021.06
大阪2号店 2021.秋

■ 北海道エリア
PDハウス西野 2020.11
札幌2号店 2021.春

■ 福岡エリア
PDハウス有田 2020.06
PDハウス今宿 2021.05

働き方
公開中!

介護サービス
サンワエルズ

0120-905-166

賛助会員名簿 (順不同)

A会員

社会医療法人董仙会
学校法人 金城学園
株式会社 gene

B会員

学校法人センチュリー・カレッジ
社会福祉法人徳充会青山彩光苑
特定医療法人社団勝木会
医療法人社団和宏会

C会員

栗津神経サナトリウム
石川県済生会金沢病院
石川県リハビリテーションセンター
医療法人社団浅ノ川浅ノ川総合病院
医療法人社団浅ノ川金沢脳神経外科病院
医療法人社団浅ノ川桜ヶ丘病院
医療法人社団浅ノ川千木病院
医療法人社団映寿会
医療法人社団さくら会森田病院
医療法人社団慈恵会
医療法人社団丹生会
医療法人社団生会えんやま健康クリニック
医療法人社団扇寿会
医療法人社団長久会
医療法人社団同朋会
医療法人社団千木福久会
医療法人社団洋和会
社会福祉法人寿福祉会

医療法人積仁会
金沢医科大学病院
独立行政法人地域医療機能推進機構金沢病院
金沢赤十字病院
公立穴水総合病院
公立宇出津総合病院
社会福祉法人篤豊会
社団法人石川勤労者医療協会城北クリニック
城北病院
珠洲市総合病院
芳珠記念病院
医療法人社団 竜山会 金沢古府記念病院
医療法人社団持木会柳田温泉病院
医療法人社団 光仁会
医療法人社団橘会整形外科米澤病院
宇野酸素株式会社
金沢義肢製作所
株式会社トータルシステム
株式会社トミキライフケア
エア・ウォーター・リンク株式会社北陸支店
株式会社 ヤマシタ 金沢営業所
セントラルメディカル株式会社
株式会社 メディベック
株式会社 サンウェルズ

D会員

あいずみクリニック
有限会社さわやか金沢
東洋羽毛北信越販売株式会社北陸営業所

Web会員手続きQRコード



QRコードの説明

研修案内や県士会の情報についてはQRコードから県士会Webにアクセスしてください

会員数

会員数 855名 (2/17現在) 認定作業療法士数 31名 (2/1現在) 専門作業療法士数 4名 (2/1現在)

新会員

坂口 太暉 (柳田温泉病院)

編集後記

「智に働けば角が立つ。情に掉させば流される。意地を通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい」有名な夏目漱石の草枕の一節。この後にご存知か? 「住みにくさが高じると、安いところへ引き越したくなる。どこへ越しても住みにくいと悟ったとき、詩が生れて、絵ができる」ここでハッとする。窮屈さから逃れられないと悟った時、芸術が生まれ、逆に満たされると産み出せない。窮屈や息苦しさは人を苦しめるが、代わりに何かへと追い立てる。社会の窮屈さは、人を駆り立てる原動力なのであろう。窮屈なコロナ禍の中、県士会員の飛躍に期待したい。

公益社団法人石川県作業療法士会ニュース 年4回発行

編集担当: 酒野直樹、米田貢、越田雄、川口朋子、藤田隆司、寺井利夫、萬貴裕、太田哲生、岩田望、網谷郁美、西谷早紀、吉田友稀乃、竹中朋也、白山武志、南朱音、村井俊太、福岡翔平、北村梨紗、仲佐東、木村知愛、宮腰真、上野玲子、川上直子、宮田真由美、青木友花、竹村健太郎、増田司、南澁太

発行所: 公益社団法人 石川県作業療法士会

〒921-8043 石川県金沢市西泉3丁目28-1 東和第3ビル201 Tel 076-259-0678

発行人: 東川哲朗 印刷: ヨシダ印刷株式会社